

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 高崎市立六郷小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒370-0075
群馬県高崎市筑縄町32番地2

E-mail : rokugou-sho@ted.city.takasaki.gunma.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 332名 女子 289名 合計 621名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容については、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

1 活動名

「自然とつながろう、かかわろう。そして、コエ（声）出し、エコ活動」

2 環境教育としてのねらい

本校は、平成22年度にユネスコスクールに認定され、教科の学習や委員会活動で、全校児童でESD（持続発展教育）に取り組んでいます。ESDとは、私たちとその子孫たちがこの地球で生きていくことを困難にするような問題について考え、立ち向かい、解決するための学びです。環境、福祉、社会、国際理解などの問題などがあります。本校では、環境教育を中心にESDに取り組み、次の3点を中心に活動しています。

- ① 環境教育、人権教育、国際理解などの学習をESDカレンダーとして教育課程に位置づけ、学校全体で取り組むことで、意図的・計画的に環境に関心を持ったり積極的にかかわったりする場を設定する。
- ② 環境についての教科学習や委員会活動を通して、今自分ができる活動を考えさせ、実践できる力を育成する。
- ③ 栽培活動・環境活動と福祉活動を連携させることにより、相手を思いやる心を養うとともに、自分の活動が他の人に役立つという自己有用感を持たせる。

3 学校及び地域の環境の状況

本校は、旧高崎市の周辺部に位置する児童数621人の学校です。学校周辺は宅地化や商店の進出、道路の拡充などにより、子どもたちが自然とかわる機会は減少しほとんどありません。校区内には、六郷公園などの公園や、ハナミズキ通りなどの道路沿いに街路樹が植えられ、子どもたちが緑の木々に接する場所もあります。

4 活動の内容

1) 各学年での取組

全学年のESDカレンダーを作成し、教育課程に位置づけ、主に生活科・総合的な学習の時間に「自然とつながろう、かかわろう」として学習しています。本校の子どもたちにとって、自然を守る活動の前段階として、自然と触れ合い自然のよさを感じることができる場を設定することが、環境教育にとって重要と考えています。

① 1年生 フォレストリースクール

県環境林業部の協力のもと、子どもたちがふだんよく遊ぶ「六郷公園」で春・秋・冬の年3回実施しました。

春は、草花を利用したお弁当づくりを実施しました。草花の感触やにおい・色彩などを体感しながら、自分の思いや個



性を生かしたお弁当を制作しました。

秋には、公園にある葉を利用した「葉っぱジャンケン」や、講師の先生と同じ木の実などを探す「同じ物を見つけよう」というゲームをし、意識的に自然と関わることができました。

冬は、カエデなどの種を紙とクリップで作って飛ばすことにより、種が遠くまで飛んでいく仕組みを体験しました。

② 2年生 ハナミズキ通りの観察

学校近くにあるハナミズキ通りには、たくさんの街路樹が植えてあり、四季折々の花や紅葉が見られます。ふだんは気付かずに通り過ぎてしまいますが、生活科の学習として観察することで、子どもたちは意識して街路樹を見ることができました。また、ミニトマトや校内の菜園でサツマイモを栽培し、食育にもつなげています。



③ 3年生 草花の栽培・地域学習

理科の学習では、ひまわり、ハウセンカ、ピーマン、ワタの4種類から自分の育てたい植物を選び、一人1鉢で栽培し観察しました。ピーマンやワタはふだん育てたことがないため、子どもたちは興味を持って観察しました。

また、公園や店などの地域学習をグループごとに行い、学習後は地域にある公園の様子や店の様子を模造紙にまとめて発表しました。地域学習で、自然だけでなく地域の人々とのかかわりもさせていただきました。



④ 4年生 浄水場等の見学を通して

浄水場やごみ処理場の見学を通して、身の回りの環境に目を向けてきました。自分のテーマを設け、夏休みにはエコ活動の実践を行い、一人一人が課題を意識を持って取り組みました。家庭の協力のもと、子どもたちは地球温暖化や水質汚染などについて調べ、家庭でグリーンカーテンの栽培、温暖化防止のための打ち水の実施、家庭の電力調べ、エコクッキング、ゴミの分別等を実践しました。実践内容は、2学期の学校公開日に保護者や地域の方々に発表しました。



⑤ 5年生 尾瀬学習・バケツ稲づくり

平成22年度から県施策の「尾瀬学校」に参加しています。学習の流れは、

a) 尾瀬事前学習として、尾瀬ガイドさんに来校していただき、尾瀬の現状や環境問題について保護者と一緒に話を聞きました。保護者と一緒に講演を聞いたことで家庭でも話題に上がり、一層の意識づけができました。

b) 尾瀬学校で調べたい課題を一人一人立てました。子どもたちからは、尾瀬の植物、昆虫、気候、木道のこと、自然を守る工夫などの課題が出ました。



c) 尾瀬学校では、尾瀬の自然に実際に触れました。自分が持った課題に対して、ガイドさんにインタビューしたり、草花の写真を撮ったりしました。

d) 帰校後は、模造紙等にまとめ、学校公開日に保護者に発表しました。また、尾瀬の様子を思い出し「この緑 未来のために つなげよう」など、子どもたちの作品を尾瀬文学賞俳句大会に出品しました。バケツ稲づくりも行い、水管理の大変さなどを、栽培を通し体験しました。



⑥ 6年生 水生生物調査・エコムーブ環境教室

夏休みに行われる高崎市環境政策課主催の水生生物調査に平成18年度から継続して参加し、烏川の調査を行っています。今年度は高崎経済大学の先生や学生も一緒に参加しました。調査では、環境政策課の方から水生生物の種類を教えていただき、カワゲラやヒラタカゲロウ、ヘビトンボなどの水生生物の生育地や数を調べ、川の水質や汚染の状況を確認しました。棲んでいる生物により川のきれいさが分かり、石にかくれていた小さな水生生物の分類も行いました。



県の移動環境学習車「エコムーブ号」の講師の先生から指導を受けました。主に「地球温暖化」と「水の汚れ」について学習し、一人一人が環境問題への意識を高めることができました。

⑦ 特別支援学級 野菜の栽培

年間を通し、学級園でトマトやキュウリ、ダイコンなどを栽培、収穫することで自然に親しんでいます。秋にはドングリや松ぼっくりなどを使い作品を仕上げ、作品展に出品しました。

2) 委員会活動から発信して全校への取り組みに

5・6年が委員会活動を行っています。「コエ（声）出し、エコ活動」をキャッチフレーズに環境委員会と奉仕委員会が主になり、全校児童に呼びかけ（声出し）て、エコ活動をしています。特に、福祉的な視点も取り入れて環境教育を行っています。

①環境委員会 日常的なエコ活動と栽培活動

日常的な活動として、「環境委員会エコパトロール」のビブスを着用し、休み時間に毎日、節電節水活動のため、校舎内を巡回しています。5月の児童集会では、「毎日行っている歯みがきの時に節水のためコップを使ったり掃除の時にバケツを使ったりしよう」、「教室内や廊下などの節電をしよう」、「ゴミを減らそう」などの内容で、全校児童に向けて劇とクイズで資源の大切さについて啓発しました。また、学校園の花壇に四季折々の花を植えたり、来賓玄関の横にグリーンカーテンを栽培したりしてお客様をお迎えしています。夏休みも



除草や水くれのために、当番を決め活動を行っています。平成24年度からは、ヒマワリの種を集めて、福島県の障がい者施設に送っています。種は、花壇にヒマワリの種を蒔いて種を採ったり、代表委員会と合同で、全校児童や地域にひまわりの種の回収を呼びかけたりして集めました。障がい者施設からお礼のお手紙をいただき、子どもたちにとり、活動の励みになりました。

②奉仕委員会 ペットボトルキャップの回収

全校児童に、「アフリカにポリオワクチンを送ろう」と児童集会で呼びかけたりポスターを掲示したりしています。ペットボトルキャップはいつでも回収できるように、児童玄関に回収箱を用意してあります。ポリオワクチンの数は児童玄関に図で表示され意欲づけにもなっています。本校の活動が地域にも広まり、六郷公民館や地域の店舗からもたくさんのペットボトルキャップが集まり、協力していただいています。

③全校・PTAの取組

冬休みを利用し、全校で家庭と協力して「県民アクション ストップ 温暖化」に参加し、環境教育に取り組んでいます。

また、PTA活動として、飲料用のテトラパックや使用済みインクカートリッジのリサイクル活動を行い、回収箱を児童玄関の近くに設置し、子どもたちや保護者がいつでも回収に参加できるようにしています。

④南極教室

10月7日に六郷小学校で「南極教室」が行われました。これは、昭和基地と六郷小学校のライブ交信で、南極の自然環境等を広く子供たちに知ってもらうために、国立極地研究所を介して実施されたものです。5・6年生が体育館に集まり、南極の自然や動物隊員さんの生活についての話しを聞いたり、昭和基地の外の様子や南極ならではの実験が紹介されたりしました。

後半には、児童からの質問コーナーもあり、率直な疑問に答えてもらうこともできました。例えば、「どんな食事をしているのですか?」「シロクマはいますか?」「なぜオーロラが見えるのですか?」などです。

また、全クラスに南極の氷がプレゼントされ、氷に含まれる何万年前かの空気がプチプチと音を立て、感動を味わうことができました。子供たちは大興奮です。南極教室を通して、自然のすばらしさ、環境を守り続けていくことの大切さを学ぶことができました。



3) 活動の公開

活動の様子は、本校のホームページや学校通信、PTA広報等で紹介しています。また、本校の手作りのリーフレットにESDをクローズアップし、随時更新して必要に応じて配布しています。また、児童玄関には「ESDコーナー」を設け、活動の様子や児童集会で使った資料などを常時掲示してあります。保護者の方も来校したときに活動の様子を見ていただけるようになっていきます。

5 成果と今後の課題

1) 成果

- 生活科や総合的な学習の時間を主に、自然とかかわる学習を教育課程に位置づけて行ってきたことで、自然の大切さ、身近な環境への課題意識を高めることができたました。
- 環境委員会や奉仕委員会が中心になり、全校児童にエコ活動を行ったことで、子どもたちの環境意識や実践に取り組もうとする意識が高まってきました。
- 7月に行った学校評価で「あなたは、日ごろの生活で、環境にやさしい生活をしていると思いますか」を児童に質問したところ、86%の児童が「とてもしている」「している」と回答しました。また、12月に同様の学校評価を行ったところ、90%の児童が同様に回答しました。このことから、環境に対する意識づけが子どもたちの中に着実に定着してきていると考えられます。
- 「南極教室」は貴重な活動になりました。テレビや新聞等で報道され、全校的な話題となるばかりでなく、一人一人が南極の本物の氷に触れることで、自然界や生命に対する畏敬の念を培うことができました。
- 先進校の校長先生を講師に招き、ESDカレンダーや総合の時間を中心にした取組について学びました。ユネスコスクールとしての実践がより具体的にイメージでき、職員の意識が高まりました。

2) 課題

- 過去3年間の取組を通して、本校のESDは「環境教育」を中核にしながらも、「多文化理解」「人権・命の教育」「国際協力」等へ広がっています。これらをESDカレンダーとして位置づけが明確になってきました。総合的な学習の時間の指導計画を改善し、さらに具体的な実践につながるようにしていきたいと思います。
- 本校のESDのこれまでの取組を振り返り、教育課程の位置づけを具体化し、全教育活動で取り組む体制を確立していきます。
- 保護者や地域へのより一層の啓発のために、活動の情報公開を行っていきます。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（)